

□ トークセッションで具体的な助言 — センター所員が小グループの担任として —



今年度、新たにトークセッション（年間7回）を設けました。
センターにおける担任は、様々な参画型の演習や小グループの話し合いにも参加し、初任者の指導力の課題を明らかにしつつ、一人一人に応じて助言をしています。
また、スピーチの時間を設け、表現力の向上も目指します。

【受講者の声から】

○自分が日々悩んでいることについて、他の先生がどうされているかを知り、自分の指導について見直すことができました。児童の実態に合わせて実践していきたいと思います。

○トークセッションでは、他の先生と交流することによって、自らの実践を振り返ることができました。特に、反省点が明確になり、今後どうすべきかを考えるよい機会になりました。



【担当者から】

◇トークセッションでは、限られた時間内に的確に話す表現力の育成もねらいの一つとしてあげています。6月には2分間スピーチを行いました。話すことがうまく整理できず中途半端に終わったり、話すことだけに集中して相手に伝えるという意識が弱かったり、いろいろと課題も見つかりました。これからも、児童や保護者に分かりやすく伝える力を育てていきたいと考えています。さらに、トークセッションでの内容は、勤務校にもお伝えするなど連携を図っています。

学力の基盤としての国語力の育成

センターでは、所内に国語力向上プロジェクトチームを設置し、今年度新たに立ち上げられた「京の国語力向上プロジェクト会議」と連携を図りつつ「京都府版指導資料」の編集に取り組んでいます。

また、7月上旬に行った「小学校基礎学力充実講座」では、平成18年度小学校基礎学力診断テストの結果分析を踏まえ、国語力育成を重視して以下のような授業改善のポイントを提起しました。

国語科では、

- ・文章を正確に読み、論理的に考え、表現するために、文章構成について筆者の意図に注目すること
- ・指導内容の三領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）と言語事項とを関連付けた授業づくりを進めること など

算数科でも、

- ・問題の場面を理解する力や論理的に説明する力を付けるため、文と図から必要な情報を取り出し、それらと関係付けながら正確に読み取ること
 - ・自分の考えを整理して文に表したり、根拠を明らかにして説明したりするなどの学習活動を採り入れること など
- 併せて、国語力向上の視点から、「国語力アップ促進」講座の拡充など、講座内容の充実にも努めています。

■ 京の国語力向上プロジェクト（平成18年度）

